

平成29年度 後期学校評価

伊予市立佐礼谷小学校 平成30年3月

- 【アンケート結果】 4：大変よい 3：よい 2：やや改善を要する 1：改善を要する
 【評価基準】 A：肯定率100% B：肯定率80%以上 C：肯定率60%以上 D：肯定率60%未満
 【目標値評価】 A：全体肯定率90%以上 B：全体肯定率80%以上 C：全体肯定率60%以上 D：全体肯定率60%未満

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	前期・後期	目標値評価	学校による考察・改善	評価資料	評価基準	肯定率	アンケート結果(%)			
									4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	複式及び個に応じた指導法の工夫と改善を行い、基礎・基本の確実な定着に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	授業研究を重ね、授業方法が定着している。補充学習の時間を確保し、個に応じた指導にも力をいれてきた。6年生の学力テストの結果は、5年生時の結果から考えると大幅に伸び、効果の現れの一つと考える。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	0	100	0	0
			後期	A	学力テスト(国語・算数)の結果から見ると昨年度より伸びが見られた。特に算数科は重点教科として三カ年研究を進めた成果が顕著である。国語科も伸びが見られたが、読み取る力を伸ばす必要がある。他教科では、数値化しにくい教科もあることから、もう少し客観的に振り返ることができる評価の工夫を要する。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	33	67	0	0
		体験的・問題解決的な学習を充実させ、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	地域の協力により、田植え、野菜作り、俳句教室等、豊かな体験活動ができています。学習面では、読み取る力を付けるために、補充学習の内容を計算や漢字書き取り中心の内容から文章題や読解問題を多く取り入れるようにしている。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	44	56	0	0
			後期	A	保護者、地域の方々の協力もあり、後期も充実した体験活動ができています。指示待ちから、状況に合わせ自主的に行動する児童が増えてきたようにも感じる。ただ、難しい課題に出会ったとき、意欲をなくしてしまうこともあった。小規模校の特徴を生かし、個々にあった支援を行い、達成感、また、成功体験を味わえる機会をどう増やしていくかが、今後も課題である。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	44	56	0	0
		指導過程、指導法の工夫を図り、豊かに表現する力を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	朝会や交流学習等の場を利用して、大勢の前で自信をもって取り組む機会を大切にしている。1年生にも多くの機会を与えて豊かに表現する力を育てている。	児童 保護者② 教職員③ 地域住民	A	100	31	69	0	0
			後期	A	人前でも堂々と発表できる児童が多いと感じている。中には、状況を見て、臨機応変に発表したり、行動したりする児童も増えてきた。今後は、文章表記やポスター、パソコンソフトを利用したプレゼン等にも力を入れていきたい。	児童 保護者② 教職員③ 地域住民	B	87	31	56	13	0
	道徳教育の充実	家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B	家庭学習の目標を「低学年30分中学年45分高学年60分」として取り組んでいる。意欲的に取り組んでいる児童、宿題も十分にできていない児童と個人差が大きい。意欲的に取り組めるように、個々に合った宿題の内容を家庭と連携して考えるなど小規模ならではの特性を生かしたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	C	75	50	25	13	12
			後期	B	三者の評価にばらつきが見られる。一番客観的に見ているのは保護者の評価と考える。学校が家庭学習の様子を十分把握できていないことや家庭との連携が不十分であったと考える。家庭学習調査、宿題、自主学習の教師の確認の仕方や家庭学習の様子を保護者との対話の中で聞き取るなどの改善を要する。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B	88	44	44	12	0
		自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	児童アンケートで「友だちにやさしくできていない。」と答えた児童が数名いた。個別に話を聞いたり支援をしたりしている。道徳の授業や学級活動の時間をより重視するとともに、教職員で課題を共有化し、個々に合った指導を続けていかなければならない。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	B	88	75	13	12	0
			後期	A	「児童の先生や大人に対する言葉遣い、態度が気になる。」という意見を多数いただいた。前期に比べAではあるが、評価が下がっているのは、その点が大きいと考える。時と場に応じた言葉遣いや態度について、教職員で話し合い、現在、指導を行っている。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	63	37	0	0
		人とふれあい、思いやりの心・感謝の心を持ち、自ら実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	「高学年の児童が優しく低学年の児童のお世話をしている」との記述があった。学校外でもそのような声が出ていることは大変よいことだと考える。ただ、この結果に満足すること無く今後も家庭、地域と協力した取組を行いたい。	児童 保護者⑤ 教職員⑥ 地域住民②	A	100	31	69	0	0
			後期	A	この評価も若干、下がっているのは、先の項目と同じ理由が考えられる。人と人とのふれあいにおいて、言葉や態度は重要である。どのような言葉が、また態度が相手に不快な思いをさせるのか、その都度指導していく必要がある。	児童 保護者⑤ 教職員⑥ 地域住民②	B	88	50	38	12	0
学校関係者評価委員の所見	学校の対応	学校は、各学年の発達段階を考えながら、人権・同和教育を適切に行っているか。 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	今年は、授業をまだ、公開していないが、学校便りで保護者、地域に活動を紹介したり、オピニオンリーダー研修への参加協力を呼びかけたりした結果と考える。実際は授業を見て頂いての結果で見極めなければならない。	児童 保護者⑨ 教職員⑦ 地域住民④	A	100	31	69	0	0
			後期	A	評価はAとなっているが、前期とほぼ変わらない評価である。授業公開する機会もあったのに伸びが見られないということは、まだまだ指導に改善が見られていないと考えて良いだろう。今後も、地域教材の開発や道徳での指導法の工夫を中心に改善を続けていきたい。	児童 保護者⑨ 教職員⑦ 地域住民④	A	100	38	62	0	0
		前期	B	評価に、教師と児童・家庭で差がある原因は、明確な評価の基準がないことがある。ただ、教職員の中に、読書の時間をもっと増やしたいという声があった。1学期は学習指導の時間に振りすぎた感がある。業間の時間に読書の時間を確保し、教職員もそこで、ともに読書を行いたい。	児童⑩ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	B	88	63	25	6	6	
		後期	C	前期でCとしていたが、Bであったことを訂正し、お詫びします。ただ、評価がさらに下がったことには間違いがない。児童の読書カードを見る限り読書量は増えているが、家庭では実感が無い。家庭に伝える手立てをとっていないことや冊数ばかりに目が向き過ぎたことが要因と考える。みきゃん通帳を通じた読書量の確認を家庭と行ったり、本を読んだ児童のミニ感想文を家庭に伝えるなどの手立てを検討している。	児童⑩ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	D	50	25	25	50	0	
<ul style="list-style-type: none"> 読書に関しては、読む本のジャンルを広げる努力も行った方がいいのではないかと感じている。また、子どもの読書の様子や子どもの読書感想を、学校便りにコーナーを設け紹介するとよい。保護者や地域に伝える機会にもなるし、子どもも紹介されることで励みにもなる。 学校外(地域指導者主体)の活動でも、目標を決めさせて、その評価を行うよう努めている。今後も、学校と共通理解を図りながら家庭・地域も連携した活動を行ってほしい。 子どもの表現力は、育っているように感じている。 					<ul style="list-style-type: none"> 読書の評価に関しては、学校から子どもたちの様子を伝えてないことが一番の課題と思われる。学校便りやみきゃん通帳を活用し、家庭や地域に読書の様子を伝えるよう、来年度から改善していきたい。また、学校・家庭・地域が同じねらいをもって指導しているという言葉がいただいた。今後も、互いに共通理解をし、学習指導の充実を図りたい。 							

生徒指導	生徒指導の徹底	挨拶運動、清掃活動を中心に、基本的な生活習慣の形成が図れているか	前期	A	真面目に清掃活動を行っているが、私語の多い児童が見られるので個別指導を行っていきたい。また、挨拶もよくできてはいるが、学校外に出るとややできていない面があるので、地域や保護者と連携し、指導を徹底したい。	児童②あい B 94 87 7 6 0 児童③清掃 A 100 81 19 0 0 保護者⑦ A 100 44 56 0 0 教職員⑨ A 100 67 33 0 0 地域住民③ A 100 58 42 0 0
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	前期とほぼ同様の評価となっているが、前期で課題となった点は、改善できていないと考える。掃除の仕方、挨拶ともに、特効薬はない。今後も、保護者や地域の方と協力し粘り強く指導を続けていきたい。	児童②あい A 100 81 19 0 0 児童③清掃 B 94 69 25 6 0 保護者⑦ A 100 38 62 0 0 教職員⑨ A 100 33 67 0 0 地域住民③ B 96 65 31 4 0
	いじめ、不登校問題への積極的な対応ができていないか	前期	A	現在、いじめ、不登校の問題はないが、小さなトラブルは起こっている。いじめに発展しないよう全教職員で対応するとともに、保護者から学校からではなく、学校から保護者へと情報発信するなど早期対応に心掛けたい。	児童 保護者⑧ B 94 31 63 6 0 教職員⑩ A 100 33 67 0 0 地域住民	
		目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	前期同様、高評価をいただいている。ただ、いじめ等は起こると命に関わる大きな問題となってしまう。今後も、重点項目として情報収集、共通認識に立った指導を行い、早期発見、早期対応に努めたい。	児童 保護者⑧ A 100 38 62 0 0 教職員⑩ A 100 83 17 0 0 地域住民
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、健全に育っているのではないかと思います。 言葉遣いの乱れが気になる。 ゲーム等の貸し借りのトラブルなどは起こっていないのか。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 礼を逸した言葉は、職員の中でも課題となった。教員と児童との距離感があまりにも近すぎ、友達感覚になりすぎていることが要因と考える。授業と休み時間とで区別をつけるなど、時や場、状況に合った言動が行えるよう指導していく。これも、三者で共通理解を図り指導する。 ゲームの貸し借りや携帯電話のトラブル等は、家庭の協力もあり、今のところ大きな問題となっていないが、今後も指導を続けたい。 	
保健管理	健康教育の推進	早ね、早起き、朝ごはんの習慣は定着しているか	前期	A	昨年に比べると、朝ご飯をきちんと食べ、早寝早起きの習慣も身に付いてきている傾向にあるが、できていない児童もいる。今後も、全体での指導を行うとともに、家庭と連携しながら個別指導を粘り強く続けなければならない。	児童④寝起 B 94 81 13 0 6 児童⑤ご飯 A 100 75 25 0 0 保護者⑩ B 94 63 31 6 0 教職員 地域住民
		目標値：児童、保護者の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	高評価となつてはいるが、児童の「早寝、早起き」の評価が下がっていることが気になる。特に高学年に顕著であった。「学習時間が伸びた」「テレビやゲーム」等様々ではあるが、もう一度、一日の時間の使い方を見直しさせたり、睡眠の必要性を確認したりして、指導していきたい。	児童④寝起 C 75 44 31 19 6 児童⑤ご飯 A 100 94 6 0 0 保護者⑩ A 100 50 50 0 0 教職員 地域住民
	個に応じた体力づくりはできているか	前期	A	めあてをもって朝マラソンに取り組んでいる。ただ、各児童に合っためあてになっていない面もあるので、教職員が声掛けを行い、達成感の味あえるめあてを児童がもてるよう支援したい。	児童⑥ A 100 88 12 0 0 保護者⑪ A 100 69 31 0 0 教職員⑫ A 100 67 33 0 0 地域住民	
		目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	児童の評価は、下がってはいるが、朝マラソン等めあてをしっかりとってよく頑張っていると評価している。ただ、マンネリ化し意欲の低下につながらないよう工夫しながら、今後も体力づくりには力を入れていきたい。	児童⑥ B 88 75 13 12 0 保護者⑪ A 100 38 62 0 0 教職員⑫ A 100 83 17 0 0 地域住民
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくりは、よく頑張っている。 早寝、早起きなど基本的な生活のリズムは一度崩れると治りにくい。今後も指導を続けて欲しい。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 学校を終えても、結構児童は忙しい面がある。一日の過ごし方を見つめ直し、有効な時間の使い方を考えさせ、今後も、早寝・早起き・朝ご飯等基本的な生活習慣の定着に努めたい。 	
保護者・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした体験的な学習を推進しているか	前期	A	地域の人材や教育資源を生かした佐礼谷小学校らしい取組ができている。今後も連携を図りながら取り組んでいきたい。	児童⑬ B 94 75 19 6 0 保護者⑫ A 100 69 31 0 0 教職員⑬ A 100 50 50 0 0 地域住民⑤ A 100 88 12 0 0
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	高評価をいただいている。地域の方から学んだことをより効果的に児童に伝えていくことや、児童だけでなく教員も地域から学ぶ姿勢がもっと必要だと考えている。	児童⑬ B 94 88 6 6 0 保護者⑫ A 100 69 31 0 0 教職員⑬ A 100 83 17 0 0 地域住民⑤ A 100 85 15 0 0
	児童の活動の充実をめざし、公民館、老人クラブ、住民自治組織されだにとの連携に努めているか	前期	A	保護者、教職員、地域住民とともに連携がよくできているとの評価である。学校の環境整備にも多くの地域の方が参加して下さりありがたい。子どもにも感謝の心を育てなければならない。	児童 保護者⑬ A 100 73 27 0 0 教職員⑭ A 100 50 50 0 0 地域住民⑥ A 100 88 12 0 0	
		目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	この項目も高評価をいただいた。地域との連携は、本校では欠かせないものであり、本校区の特徴、伝統である。今後は、この伝統をどう引継ぎ、活性化していくかが課題になると考えている。	児童 保護者⑬ A 100 88 12 0 0 教職員⑭ A 100 83 17 0 0 地域住民⑥ A 100 88 12 0 0
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> O B A J I N太鼓とのコラボ演奏はすばらしかった。 学校・家庭・地域の連携を発表する機会があったが、他の地域の方からも佐礼谷教育後援会の活動は大変好評であった。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした教育は、本校区の特徴である。今後も、家庭、地域の声に真摯に聞き、充実を図っていききたい。 	

研修	教職員の資質と指導力の向上	計画に沿って研究授業を行い、授業改善に積極的に取り組んでいるか	前期	A	少ない人数であるが、授業研究を通して互いに授業改善に取り組むことができている。今年、人権・同和教育に力を入れ、外部主催の研修会にも参加して力量を高めていきたい。	児童																													
		目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	研修主任を中心に、職員が共通理解のもと研修を進めることができたと考えている。ただ、それが児童に生かされなければ意味がない。今後も、評価、改善を重ねていきたい。	児童																													
		教職員のコミュニケーション能力は高まっているか	前期	A	今年度も、地域の方とのコミュニケーションが図れていると考える。やや、学校へ来てもらうことが多いので、教員がより地域へと出向き交流を深めたい。	児童																													
		目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	地域との連携は本校の基盤であり、小規模校だからこそ教員が協力しなければ充実した教育活動は行えない。児童と、職員と、家庭と、地域と今後も意思疎通が図れるよう研修に努め、指導力の向上を目指したい。	児童																													
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 先生方はよくやっているのではないかと。 人権・同和教育研究会の授業は、大変よかった。 				学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 至らぬ点は、遠慮なく言って欲しいと考えている。今後も、児童のために、よりよい学校・授業をめざし努力していきたい 																													
安全管理・施設管理	安全安心でうるおいのある学校づくり	安全確保のための見守り活動は充実しているか	前期	A	評価はAではあるが、保護者より登校時の見守りに教員ももう少し出てきて欲しいとの意見があった。大雨時や危険生物発見時など、非常時対応面で徹底できてなかったところがあるので改善したい。	児童⑦	A	100	88	12	0	0	保護者⑮	B	88	50	38	12	0	教職員⑰	A	100	50	50	0	0	地域住民⑧	A	100	67	33	0	0		
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	Aの評価ではあるが、四者に差がある。安全確保は命に関わることであり、より情報交換を行い、改善を行っていききたい。	児童⑦	B	94	75	19	6	0	保護者⑮	B	91	69	22	9	0	教職員⑰	A	100	0	100	0	0	地域住民⑧	A	100	65	35	0	0		
		落ち着きと元気が出る、教室環境、校内掲示、屋外環境の整備が進んでいるか	前期	A	地域や保護者の協力を得て、環境整備が進んでいる。地域また生徒指導から積極的に安全面での情報を入れてもらっているが、それに甘えている感がある。全職員で学校外の整備状況を常に気をつけ確認し合わなければならない。	児童																													
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	保護者の評価が若干下がっている。これは反省である。子どもたちが楽しく安全に学校生活を送ることは基本である。職員が常に気を付けることは当然であるが、客観的に見ることが出来る保護者や地域の方からより情報が得られるよう手立てを工夫したい。	児童																													
学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 特に大きな課題はないだろう。 体育館への渡り廊下は大丈夫か心配である。車の出入りがある。 走ったりするのに支障の無い範囲だが体育館の床に少しではあるが隙間が出ているように思う。 				学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 今後も安全、安心な環境づくりに努めたい。 渡り廊下には、カーブミラーの設置を考えている。ただ給食車の出入りぎりぎりの幅なので、無理なときは、別の方策を考えたい。 体育館の床は、ワックスを毎年掛ける、または、パテ等を間に入れるようにしたい。 																													

2 昨年度の主な課題に関する今年度の取組の成果

- 家庭学習の習慣の定着は、「家庭学習がんばりカード」を続けたことで徐々に効果が表れている。、学童クラブで宿題をすることが、家庭学習につながるかという指摘もあったが、児童に、学童クラブでできなかったときは、家庭で行うという意識が育ってきている。
- 早寝・早起き・朝ご飯の習慣が十分でないという課題があったが、「ハッピー貯金」の結果をもとにした、個別指導で、昨年より改善された。ただ、まだ十分ではない児童も見られるので、今後も家庭と協力しながら指導を継続していきたい。

3 今年度改善点、または、前期評価の主な課題に関する後期の取組の成果と次年度の課題

- 部落差別解消法の施行もあり、今年度より、人権・同和教育を一つの重点項目に加えた。多くの保護者や地域の方が研修に参加してくださるなど、三者が連携しながら学習を進めることができた。今後も継続していきたい。
- △ キャリア教育、プログラミング教育にももう少し力を入れてはどうかと、保護者より前向きな意見をいただいた。協力団体との連携、環境整備等で具体的な方策は打ち出せていないが、来年度、一時間でも新しい取り組みを行う方向で検討している。
- △ 来年度は今まで行われてきた学校行事を、学校・家庭・地域で一度見つけ直すことを検討している。
- 読書に関しては、前期の一番の課題であったが、さらに評価が下がっている。児童の読書量は増えたものの、そういった様子が家庭や地域に伝わっていないことが要因である。評価委員会でもアドバイスがあった、学校便りやみきゃん通帳の活用をもとに、読書の様子を家庭、地域にもっと発信するとともに、そのことで児童の読書への興味・関心を高めたい。